イグル字と稱せられるもので、從つて一般にはウイグル語譯の華嚴經と稱せられるべきものであるが、余はかねてから主張してゐるやうに、この文字を用ゐてあるが故に、一概にその語をウイグル語と稱することには贊成し得ないと共に、この殘簡の奥書（XI, 7-9）には、下に譯出するやうに、本經が唐語からトルコ語に飜譯せられたものであることを明記してあるから、當然これに從つててトルコ語譯の華嚴經と稱しなければならぬ。

斷簡に關する解說をこゝにとゞめ、以下漢譯と對照しながら譯述を試みる。疑義があつたり、特に說明を要すると考へる點については、註記に於て述べることゝする。

（I）

1. namo'but : namo dram na mo : sang :
南無　佛　南無　法　南無　僧

2. mχa vaipuli-a buda ptmalangkr r
①
mahâvaipulya buddhâ padmalañkâra
大　方　廣　佛　華

3. tigmä uluγ bulung yïngaχ sayuqï
ト稱スル　大　方　悉ベテニ

4. ärtingü king alqïγ : burχan-lar-
甚ダ　廣　遠ナル　諸佛

5. ning linχu-a čačäg özäki
ノ　蓮華　(花)ヲ　以テ